



# みよし

令和3年10月22日

文責 久保島 修

## ☆学校雑風景☆

ついこの間まで暑い中、運動会の練習に取り組んできたと思っていたら・・・十三夜さんを迎えたあたりからすっかり季節が変わってしまったように涼しく（寒く）になりました。

登校してくる子を見ると服装も様変わりしていました。それでも、中には、半袖半ズボンという強者もいます。見ているこちらの方が縮み上がりそうですが、寒暖差に体調を崩さぬよう、子供と同様に気をつけていきたいと思います。

山梨県に発出されていた「まん延防止重点措置等」は解除されたとは言え感染の再拡大に備え、学校生活には大きな制限がかかっています。マスクをしておの合唱やマウスシールド、フェイスシールドを着用しての器楽演奏など・・・が続き、コロナ前の学校生活様式に完全に戻るにはまだまだ時間がかかります。

また、本来ならば、10月は6年生が出演する「都留地区陸上記録会」や3・4年生が代表で参加する「都留地区親善音楽会」が開催され、市内の小・中学生たちと運動や音楽を通してふれ合うことのできる貴重な行事がありましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年度に続き今年度も中止することとなりました。（詳細については既に御連絡させていただいております）来年こそはコロナ禍で中止となってしまった多くの行事が開催されることを願いながら今後も、谷村第二小学校では、感染症対策をしっかりと行いながら、学習活動や学習体験を始めたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今後とも御支援、御協力を、どうぞよろしくお願い致します。



## .....:学校の様子より:.....

### ○秋の校外学習（秋の遠足）（10月7日）1・2年生



1・2年生はバスに乗って、山梨市にある「万力公園」に行きました。万力公園ではどんぐり拾いや、「カピバラ」などの小動物とふれ合うことができました。次に「笛吹川フルーツ公園」に行きました。ここは、正面に富士山、遠くに南アルプスなどの山々が一望でき、夜には満点の星空と甲府盆地の夜景がすばらしく、「新日本三大夜景」に認定されるなど景色は抜群な場所です。（当日の天気では富士山はちょっと・・・だったかもしれません(。;)) おいしいお弁当も食べ、遊具でいっぱい遊び、楽しい一日を過ごしました。

### ☆秋の校外学習（秋の遠足）（10月7日）3・4年生



3・4年生は、富士河口湖町の「富岳風穴」、鳴沢村の「鳴沢氷穴」「紅葉台」「三湖台」に行きました。昨夜からの雨で「紅葉台までの登山道は大丈夫かな？」と心配していましたが、三年の担任が朝、鳴沢村のコンビニに電話をかけて、昨夜の雨の状況を確認して準備万端で出かけました。「鳴沢氷穴」は今から約1150年以上前の富士山の側火山噴火の際にできたと言われ、内部の気温は年平均3℃と低く、一年中氷に覆われています。子供たちは一足早く「冬」を体験しました。次に、登山道を歩き「紅葉台」へ向かいました。ここで待ちにまった、お弁当の時間となりました。ちょっぴり疲れて、ちょっぴり寒かったですが、お弁当をしっかりと食べて元気MAXで一日がんばりました!(^)!

## \*秋の校外学習（秋の遠足）（10月8日）5年生



5年生は絶好の秋空の下先ずは、山梨県庁（防災新館）に行き、「防災学習」を行ってきました。この防災新館では、水防対策、災害対策の対策室を見学しました。また、山梨県警察本部通信指令課の「交通管制センター」や「山梨ジュエリーミュージアム」の見学も行いました。お昼は、県庁のすぐとなりにある「舞鶴城公園」でお弁当を食べました。

午後からは、県立博物館に行き、「山梨の豊かな自然と人々がどのように向き合ってきたのか」という歴史や山梨の自然の成り立ちなどを勉強しました。5年生は県庁所在地の甲府と、古代の甲斐の国の都として栄えた笛吹市を訪れ、都留市と違う景色や環境に驚きの声も上がっていました。

## ※避難訓練（初期消火訓練・煙体験）（10月19日）



10月19日（火）に第3回の避難訓練を実施しました。今回は、授業中に地震が発生し、その後、火災が発生したという想定での避難訓練でした。（今回は雨が降ってきたため体育館への避難となりました）大きな地震が収まった後でも、火災も発生している状況下では、何に気をつけ、どこから避難したらよいかを判断する必要があります。そのことを学ぶ訓練でした。

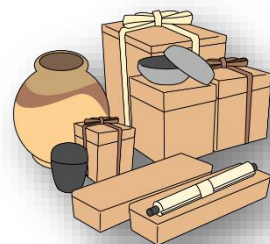
避難後には、都留消防署の6名の消防隊員の方の御協力を得て、初期消火訓練として訓練用の消火器を使用した消火方法を学び、更に「実際の建物（旧学童教室）」を使用して、煙が充満した場所からの避難方法も、体験学習させていただきました。（1・2年生は特別に最新の消防車も見せていただきました）

## ◎校長雑感（その いち ） ～「本物と偽物」～

私事となりますが先日、亡き父の七回忌の法要を行いました。その際、お世話になったお寺の御住職が「本物と偽物」という話をしてくださいました。

お坊さんというのは医師や教師と違って、免許状がない。よって、本物とそうでないものとの区別をすることが困難。通夜式や告別式などお坊さんの所作を見れば意味は分からずともありがたみは感じるかもしれない。ありがたみは感じるかもしれないが、本当のところは分からない。だから当寺では通夜式・告別式・法要等の儀礼について一つ一つ丁寧に説明を加えながら行う。それをみてもらい本物であるか偽物であるのかを判断してもらいたい。そんな前置きをいただいた後に、通夜式から始まるいろいろな読経や所作、一つ一つの意味を賜りながら亡き父の法要をしていただきました。

さて、私たち教師は教員免許状を有しています。「本物か偽物か」で言ったら本物です。しかし、本物たる努力を怠ったら、それはもう……。保護者の皆様や地域の皆様方には谷村第二小学校の教育に触れていただき本物であることを感じ取ってもらい、そんな研鑽を職員とともに積んでいきたいと思っております。



## ◎校長雑感（その に ） ～「待つ」こと～

私が学級担任の頃、尊敬する先生から、「授業では、『間』が大切だ」と教えていただきました。「常に教師が子供に語りかけてはいけない。物事を考えるときには、意図的な意味のある「間」や「沈黙」が必要だ。」と教室から一瞬音が消える。これが、子供にはより一層深い思考をするようになるのだと。子供たちがじっくり考えて、それが表出されるまで「待つ」ことだそうです。

教師という職業上、我が子を見ると、いろいろなことをつい口を出したくなってしまいます。勉強や遊び、普段の生活の中でも、急かしていたり、先を見通したことを言ってしまったりします。大人は、経験上どうあるべきかを知っているため、子供に先に伝えてしまいます。もしかして、もう少し「待つ」ことができれば、ぼーっとしているように見えるときも、その時間が子供にとって大切な考える時間だったのではないかと。さらに、世の中に目を向けると、待てない時代となっていると思います。例えば、メールや電話等が発達していて、いつでも待たずに連絡や情報が手に入ります。メールを送ったのに、すぐ返事がないとイライラしてしまうことはないでしょうか。新しいものをいち早く情報を入れたい思いから、情報がなかったり、進展がなかったりすると不安で仕方がない。「待つ」ことがマイナスに捉えられているように思います。



コロナ禍の中、じっと「待つ」ことを続けた子供たちです。その蓄えた力が、必ず発揮される時がやってきます。いまの時期をプラスに捉え、どのように成長を待てるかを待つことが今、子育て、教育には必要であるように思います。